

<日本におけるガイドライン等>

1)

(5) 要望内容に係る本邦での臨床試験成績及び臨床使用実態（上記（1）以外）について

1)

(6) 上記の（1）から（5）を踏まえた要望の妥当性について

<要望効能・効果について>

1)

<要望用法・用量について>

1)

<臨床的位置づけについて>

1)

4. 実施すべき試験の種類とその方法案

1)

5. 備考

<担当者氏名及び連絡先>

佐藤吉壯

〒 373-8585 群馬県太田市八幡町 29-5

富士重工業健康保険組合総合太田病院小児科

TEL 0276-22-6631

FAX 0276-25-7498

Mail address yoyoyo@ota-hosp.or.jp

<その他>

1)

6. 参考文献一覧

1)

(別添様式1)

未承認薬・適応外薬の要望

1. 要望内容に関する事項

要望者 (該当するものにチェックする。)	<input checked="" type="checkbox"/> 学会 (学会名; 小児感染症学会) <input type="checkbox"/> 患者団体 (患者団体名;) <input type="checkbox"/> 個人 (氏名;)	
優先順位	1位 (全 6 要望中)	
要望する医薬品	成 分 名 (一般名)	ガンシクロビル
	販 売 名	デノシン点滴静注用 500mg
	会 社 名	田辺三菱製薬株式会社
	国内関連学会	(選定理由)
	未承認薬・適応外薬の分類 (該当するものにチェックする。)	<input checked="" type="checkbox"/> 未承認薬 <input type="checkbox"/> 適応外薬
要望内容	効能・効果 (要望する効能・効果について記載する。)	先天性 CMV 感染症
	用法・用量 (要望する用法・用量について記載する。)	点滴静注 6 mg/kg/回 × 2 回/日 × 6 週間
	備 考 (該当する場合はチェックする。)	<input checked="" type="checkbox"/> 小児に関する要望 (特記事項等)
「医療上 の必要性 に係る基 準」への 該当性	1. 適応疾病的重篤性 <input checked="" type="checkbox"/> ア 生命に重大な影響がある疾患 (致死的な疾患) <input type="checkbox"/> イ 病気の進行が不可逆的で、日常生活に著しい影響を及ぼす疾患 <input type="checkbox"/> ウ その他日常生活に著しい影響を及ぼす疾患	

(該当するものにチェックし、該当すると考えた根拠について記載する。)	(上記の基準に該当すると考えた根拠) 2. 医療上の有用性 <input checked="" type="checkbox"/> ア 既存の療法が国内にない <input type="checkbox"/> イ 欧米等の臨床試験において有効性・安全性等が既存の療法と比べて明らかに優れている <input type="checkbox"/> ウ 欧米等において標準的療法に位置づけられており、国内外の医療環境の違い等を踏まえても国内における有用性が期待できると考えられる (上記の基準に該当すると考えた根拠)
備考	

2. 要望内容に係る欧米での承認等の状況

欧米等6か国での承認状況 (該当国にチェックし、該当国の承認内容を記載する。)	〔欧米等6か国での承認内容〕				
	欧米各国での承認内容（要望内容に関連する箇所に下線）				
米国	販売名（企業名）	承認なし			
	効能・効果				
	用法・用量				
	備考				
英国	販売名（企業名）	承認なし			
	効能・効果				
	用法・用量				
	備考				
独国	販売名（企業名）	承認なし			
	効能・効果				
	用法・用量				
	備考				
仏国	販売名（企業名）	承認なし			
	効能・効果				
	用法・用量				

		備考	
加国	販売名（企業名）	承認なし	
	効能・効果		
	用法・用量		
	備考		
豪国	販売名（企業名）	承認なし	
	効能・効果		
	用法・用量		
	備考		
欧米等 6 か国での標準的使用状況 <small>(欧米等 6 か国で要望内容に関する承認がない適応外薬についてのみ、該当国にチェックし、該当国の標準的使用内容を記載する。)</small>	<input type="checkbox"/> 米国 <input type="checkbox"/> 英国 <input type="checkbox"/> 独国 <input type="checkbox"/> 仏国 <input type="checkbox"/> 加国 <input type="checkbox"/> 豪州	[欧米等 6 か国での標準的使用内容]	
		欧米各国での標準的使用内容（要望内容に関連する箇所に下線）	
	米国	ガイドライン名	なし
		効能・効果 (または効能・効果に関連のある記載箇所)	
		用法・用量 (または用法・用量に関連のある記載箇所)	
		ガイドラインの根拠論文	
		備考	
	英国	ガイドライン名	なし
		効能・効果 (または効能・効果に関連のある記載箇所)	
		用法・用量 (または用法・用量に関連のある記載箇所)	
		ガイドラインの根拠論文	
		備考	
	独国	ガイドライン名	なし
		効能・効果 (または効能・効果)	

		効果に関する記載箇所)	
		用法・用量 (または用法・ 用量に関する記載箇所)	
		ガイドライン の根拠論文	
		備考	
仏国	ガイドライ ン名	なし	
	効能・効果 (または効能・ 効果に関する記載箇所)		
	用法・用量 (または用法・ 用量に関する記載箇所)		
	ガイドライン の根拠論文		
	備考		
加国	ガイドライ ン名	なし	
	効能・効果 (または効能・ 効果に関する記載箇所)		
	用法・用量 (または用法・ 用量に関する記載箇所)		
	ガイドライン の根拠論文		
	備考		
豪州	ガイドライ ン名	なし	
	効能・効果 (または効能・ 効果に関する記載箇所)		
	備考		

		のある記載箇所)	
		用法・用量 (または用 法・用量に関連 のある記載箇 所)	
		ガイドライ ンの根拠論 文	
		備考	

3. 要望内容に係る国内外の公表文献・成書等について

(1) 無作為化比較試験、薬物動態試験等に係る公表文献としての報告状況

<文献の検索方法（検索式や検索時期等）、検索結果、文献・成書等の選定理由の概略等>

1) google Scholar, MEDLINE, JMEDPlus

<海外における臨床試験等>

- 1) Effect of ganciclovir therapy on hearing in symptomatic congenital cytomegalovirus disease involving the central nervous system: a randomized, controlled trial.
J Pediatr. 2003 Jul;143(1):16-25.
- 2) The 2008 congenital cytomegalovirus conference,
5-7 November, Centers for Disease Control and
Prevention, Atlanta
EUROSURVEILLANCE Vol.14(Issue9)-5 March 2009 www.eurosurveillance.org
- 3) European Journal of Pediatrics. 169(9):1061-7, 2010 Sep.
Treatment of symptomatic congenital cytomegalovirus infection with intravenous ganciclovir followed by long-term oral valganciclovir.
- 4) Journal of Clinical Virology. 46 Suppl 4:S22-6, 2009 Dec.
Neurodevelopmental outcomes following ganciclovir therapy in symptomatic congenital cytomegalovirus infections involving the central nervous system.
- 5) Journal of Perinatal Medicine. 33(4):364-6, 2005.
Treatment of symptomatic congenital cytomegalovirus infection with valganciclovir.

<日本における臨床試験等>

- 1)

(2) Peer-reviewed journal の総説、メタ・アナリシス等の報告状況

- 1) The Journal of Laryngology & Otology (2009), 123: 391-396
Effect on hearing of ganciclovir therapy for asymptomatic congenital cytomegalovirus infection: four to 10 year follow up
- 2) Journal of Antimicrobial Chemotherapy (2009) 63, 862-867
Treatment of congenital cytomegalovirus infection: implications for future therapeutic strategies
- 3) CLINICAL MICROBIOLOGY REVIEWS, Oct. 2002, p. 680-715
Diagnosis and Management of Human Cytomegalovirus Infection in the Mother, Fetus, and Newborn Infant
- 4) Anales de Pediatría. 74(1):52.e1-52.e13, 2011 Jan.
Review and guidelines on the prevention, diagnosis and treatment of post-natal cytomegalovirus infection
- 5) Anales de Pediatría. 71(6):535-47, 2009 Dec.
Consensus document from the Spanish Society of Paediatric Infectious Diseases (SEIP) on the diagnosis and treatment of congenital cytomegalovirus infection

(3) 教科書等への標準的治療としての記載状況

<海外における教科書等>

- 1)

<日本における教科書等>

- 1)

(4) 学会又は組織等の診療ガイドラインへの記載状況

<海外におけるガイドライン等>

- 1) 米国

· CDC Cytomegalovirus

Cytomegalovirus (CMV) and Congenital CMV Infection

<http://www.cdc.gov/cmv/congenital-infection.html>

There is some evidence that ganciclovir, an antiviral drug, may prevent hearing loss and developmental outcomes in infants born with symptomatic congenital CMV infection with central nervous system involvement. However, this drug has serious side effects and has only been tested in children with severe symptoms from congenital CMV infection. If your child has symptoms of congenital CMV infection, you should consult with your doctor to decide whether to try treatment.

・米国アルバータ州（2011年）

Public Health Notifiable Disease Management Guidelines

・米国ミシガン大学

<http://www.med.umich.edu/pediatrics/ebm/cats/yang.htm>

2) カナダ

Cytomegalovirus Infection in Pregnancy

J Obstet Gynecol Can. 2010 32(4) 348

Regarding postnatal therapy, there is some evidence suggesting a limited beneficial role for ganciclovir treatment of neonates with symptomatic congenital CMV infection. A few studies have demonstrated some hearing improvement and less hearing deterioration in infants treated with ganciclovir.³³⁻³⁵

33). Adler SP, Finney JW, Manganello AM, Best AM. Prevention of

child-to-mother transmission of cytomegalovirus by changing behaviors:a randomized controlled trial. *Pediatr Infect Dis J* 1996;15:240-6.

34). Adler SP, Finney JW, Manganello AM, Best AM. Prevention of

child-to-mother transmission of cytomegalovirus among pregnant women.
J Pediatr 2004;145:485-91.

35). Adler SP, Nigro G, Pereira L. Recent advances in the prevention and treatment of congenital cytomegalovirus infections. *Semin Perinatol* 2007;31:10-8.

3) スペイン（2009年）

Journal of Perinatal Medicine. 37(5):433-45, 2009.

Guidelines on CMV congenital infection

Author : Spain, France, USA, UK, Italy

4) オランダ(2005年)

**Journal of Perinatal Medicine. Volume 33, Issue 4, Pages 364-366,
ISSN (Online) 1619-3997, ISSN (Print)0300-5577, DOI:
10.1515/JPM.2005.065, 01/07/2005**

Treatment of symptomatic congenital cytomegalovirus infection with valganciclovir

5) 英国国民健康保健（Last amended 2011）

サイトメガロウィルス感染症サポート情報

<日本におけるガイドライン等>

1)

(準JGCR) リチウムに関する開示・

Information on Lithium Management Guidelines

(5) 要望内容に係る本邦での臨床試験成績及び臨床使用実態(上記(1)以外)について

1)

(6) 上記の(1)から(5)を踏まえた要望の妥当性について

<要望効能・効果について>

1)

<要望用法・用量について>

1)

<臨床的位置づけについて>

1)

4. 実施すべき試験の種類とその方法案

1)

5. 備考

<担当者氏名及び連絡先>

佐藤吉壯

〒 373-8585 群馬県太田市八幡町 29-5

富士重工業健康保険組合総合太田病院小児科

TEL 0276-22-6631

FAX 0276-25-7498

Mail address yoyoyo@ota-hosp.or.jp

<その他>

1)

6. 参考文献一覧

1)

(103) 楠木潔・鈴木英一
薬物不一昧せ詮索海入水トモロイトモ

(別添様式)

未承認薬・適応外薬の要望

1. 要望内容に関する事項

要望者 (該当するものにチェックする。)	<input checked="" type="checkbox"/> 学会 (学会名；日本小児感染症学会) <input type="checkbox"/> 患者団体 (患者団体名；) <input type="checkbox"/> 個人 (氏名；)	
優先順位	4位 (全6件 要望中)	
要望する医薬品	成 分 名 (一般名)	サリドマイド
	販 売 名	サレドカプセル 50、サレドカプセル 100
	会 社 名	藤本製薬株式会社
	国内関連学会	日本小児感染症学会 (選定理由) 日本小児感染症学会では、サリドマイドが有効であると考えられるベーチェット病患者を把握できる可能性があるため
	未承認薬・適応外薬の分類 (該当するものにチェックする。)	<input type="checkbox"/> 未承認薬 <input checked="" type="checkbox"/> 適応外薬
要望内容	効能・効果 (要望する効能・効果について記載する。)	ベーチェット病
	用法・用量 (要望する用法・用量について記載する。)	通常、成人にはサリドマイドとして1日1回 100mg を就寝前に経口投与する。なお、患者の状態により適宜増減するが、1日 400mg を超えないこと。
	備 考 (該当する場合はチェックする。)	<input type="checkbox"/> 小児に関する要望 (特記事項等)
「医療上の必要性に係る基準」への	1. 適応疾病的重篤性 <input type="checkbox"/> ア 生命に重大な影響がある疾患 (致死的な疾患) <input checked="" type="checkbox"/> イ 病気の進行が不可逆的で、日常生活に著しい影響を及ぼす疾患	

<p>該当性 (該当するものにチェックし、該当すると考えた根拠について記載する。)</p>	<p>「ウ その他日常生活に著しい影響を及ぼす疾患 (上記の基準に該当すると考えた根拠) ベーチェット病は、厚生労働省が指定する特定疾患であり、20代～40代の成人に多く発症し、口腔粘膜のアフタ性潰瘍、外陰部潰瘍、皮膚症状、眼症状の4つの症状を主症状とする慢性再発性の全身性炎症性疾患である。 以前は男性患者が多い傾向であったが、最近の調査では発症にはほとんど性差はないようである。ただし、症状に関しては、男性の方が重症化しやすく、内蔵病変、特に神経病変や血管病変をつくりやすい傾向にある。眼病変も男性に多く、特に若年発症の場合は、重症化し失明に至る例もみられる。 これらの症状は労働だけではなく日常生活にも重大な支障をきたすため、適応疾患の重篤性は、「イ 病気の進行が不可逆的で、日常生活に著しい影響を及ぼす疾患」に該当すると考える。</p> <p>2. 医療上の有用性</p> <p>「ア 既存の療法が国内にない 「イ 欧米等の臨床試験において有効性・安全性等が既存の療法と比べて明らかに優れている ウ 欧米等において標準的療法に位置づけられており、国内外の医療環境の違い等を踏まえても国内における有用性が期待できると考えられる (上記の基準に該当すると考えた根拠) (1) 要望医薬品サリドマイドについて 要望医薬品サリドマイドは、抗多発性骨髄腫剤であり、ベーチェット病に対する作用機序は明確ではないが、海外の研究では重度のベーチェット病症状（口腔及び生殖器の潰瘍、ぶどう膜炎等）に有効であることが報告されている。 サリドマイドのベーチェット症候群の皮膚粘膜病変を有する患者を対象として海外で実施された無作為化二重盲検プラセボ対照試験の結果は <Hamuryudan V, et al., Ann Intern Med. 1998 Mar 15; 128(6): 443-450>²⁾ にて報告されている。本試験では、ベーチェット症候群の口腔及び生殖器の潰瘍と濾胞病変の治療に有効であり、100mg/日投与は 300mg/日投与と同様に有効であることが報告された。 上記の臨床試験結果から、要望医薬品サリドマイドは、外国人において有効性が示されており、投与量については、現在本剤で承認されている投与量の範囲で使用可能であると考える。 (2) 医療上の有用性の判断基準への該当性について 前述の臨床試験結果から、要望医薬品サリドマイドは、医療上の有用性の判断基準「イ 欧米等の臨床試験において有効性・安全性等が既存の療法と比べて明らかに優れている」に該当すると考える。</p>
---	--

備考	
----	--

2. 要望内容に係る欧米での承認等の状況

欧米等 6 か国での承認状況 (該当国にチェックし、該当国の承認内容を記載する。)	<input type="checkbox"/> 米国 <input type="checkbox"/> 英国 <input type="checkbox"/> 独国 <input type="checkbox"/> 仏国 <input type="checkbox"/> 加国 <input type="checkbox"/> 豪州																																																						
	〔欧米等 6 か国での承認内容〕																																																						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>欧米各国での承認内容（要望内容に関連する箇所に下線）</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>米国</td><td>販売名（企業名）</td></tr> <tr> <td></td><td>効能・効果</td></tr> <tr> <td></td><td>用法・用量</td></tr> <tr> <td></td><td>備考</td></tr> <tr> <td>英国</td><td>販売名（企業名）</td></tr> <tr> <td></td><td>効能・効果</td></tr> <tr> <td></td><td>用法・用量</td></tr> <tr> <td></td><td>備考</td></tr> <tr> <td>独国</td><td>販売名（企業名）</td></tr> <tr> <td></td><td>効能・効果</td></tr> <tr> <td></td><td>用法・用量</td></tr> <tr> <td></td><td>備考</td></tr> <tr> <td>仏国</td><td>販売名（企業名）</td></tr> <tr> <td></td><td>効能・効果</td></tr> <tr> <td></td><td>用法・用量</td></tr> <tr> <td></td><td>備考</td></tr> <tr> <td>加国</td><td>販売名（企業名）</td></tr> <tr> <td></td><td>効能・効果</td></tr> <tr> <td></td><td>用法・用量</td></tr> <tr> <td></td><td>備考</td></tr> <tr> <td>豪国</td><td>販売名（企業名）</td></tr> <tr> <td></td><td>効能・効果</td></tr> <tr> <td></td><td>用法・用量</td></tr> <tr> <td></td><td>備考</td></tr> </tbody> </table>							欧米各国での承認内容（要望内容に関連する箇所に下線）	米国	販売名（企業名）		効能・効果		用法・用量		備考	英国	販売名（企業名）		効能・効果		用法・用量		備考	独国	販売名（企業名）		効能・効果		用法・用量		備考	仏国	販売名（企業名）		効能・効果		用法・用量		備考	加国	販売名（企業名）		効能・効果		用法・用量		備考	豪国	販売名（企業名）		効能・効果		用法・用量	
	欧米各国での承認内容（要望内容に関連する箇所に下線）																																																						
米国	販売名（企業名）																																																						
	効能・効果																																																						
	用法・用量																																																						
	備考																																																						
英国	販売名（企業名）																																																						
	効能・効果																																																						
	用法・用量																																																						
	備考																																																						
独国	販売名（企業名）																																																						
	効能・効果																																																						
	用法・用量																																																						
	備考																																																						
仏国	販売名（企業名）																																																						
	効能・効果																																																						
	用法・用量																																																						
	備考																																																						
加国	販売名（企業名）																																																						
	効能・効果																																																						
	用法・用量																																																						
	備考																																																						
豪国	販売名（企業名）																																																						
	効能・効果																																																						
	用法・用量																																																						
	備考																																																						
<input type="checkbox"/> 米国 <input checked="" type="checkbox"/> 英国 <input checked="" type="checkbox"/> 独国 <input checked="" type="checkbox"/> 仏国 <input type="checkbox"/> 加国 <input type="checkbox"/> 豪州																																																							
〔欧米等 6 か国での標準的使用内容〕																																																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>欧米各国での標準的使用内容（要望内容に関連する箇所に下線）</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>米国</td><td>ガイドライン 名</td></tr> </tbody> </table>							欧米各国での標準的使用内容（要望内容に関連する箇所に下線）	米国	ガイドライン 名																																														
	欧米各国での標準的使用内容（要望内容に関連する箇所に下線）																																																						
米国	ガイドライン 名																																																						

薬についてのみ、該当国にチェックし、該当国の標準的使用内容を記載する。)	効能・効果 (または効能・効果に関連のある記載箇所)	
	用法・用量 (または用法・用量に関連のある記載箇所)	
	ガイドラインの根拠論文	
	備考	
英國	ガイドライン名	ペーチェット病の治療に対する EULAR (欧州リウマチ学会) での推奨
	効能・効果 (または効能・効果に関連のある記載箇所)	<p>1) ペーチェット病 (以下、BD と略) の消化管関連の治療に推奨可能なエビデンスにもとづく治療はない。スルファサラジン、ステロイド系抗炎症剤、アザチオプリン、TNFα 阻害剤、<u>サリドマイド</u>のような薬剤が手術前 (緊急時を除く) に第一に投与を試みられるべきである。</p> <p>2) 治療耐性及び併発例においてサリドマイドの使用成功例のケースレポート¹⁾がある。</p> <p>3) 治療抵抗性の皮膚及び粘膜所見を有する患者は、アザチオプリン、サリドマイド、IFNα で治療可能であり、大半の症例が TNFα 拮抗剤で治療可能である。</p> <p><u>無作為化コントロール試験²⁾ 及び 3 つのオープン試験³⁻⁵⁾ は、結節性病変の頻度の増加が報告されたが、<u>サリドマイド</u>がペーチェット病における口腔及び生殖器系の潰瘍と膿疱性丘疹の病変に対し有効であることを示した。</u></p>
	用法・用量 (または用法・用量に関連のある記載箇所)	
	ガイドラインの根拠論文	Hatemi G, et al; Ann Rheum Dis, 2008; 67: 1656-1662 ⁶⁾
独国	ガイドライン名	ペーチェット病の治療に対する EULAR (欧州リウマチ学会) での推奨 (英國と同様)
	効能・効果 (または効能・効果に関連のある記載箇所)	<p>1) ペーチェット病 (以下、BD と略) の消化管関連の治療に推奨可能なエビデンスにもとづく治療はない。スルファサラジン、ステロイド系</p>

		<p>抗炎症剤、アザチオプリン、TNFα 阻害剤、サリドマイドのような薬剤が手術前（緊急時を除く）に第一に投与を試みられるべきである。</p> <p>2) 治療耐性及び併発例においてサリドマイドの使用成功例のケースレポート¹⁾がある。</p> <p>3) 治療抵抗性の皮膚及び粘膜所見を有する患者は、アザチオプリン、サリドマイド、IFNαで治療可能であり、大半の症例が TNFα拮抗剤で治療可能である。</p> <p><u>無作為化コントロール試験²⁾及び 3 つのオープン試験³⁻⁵⁾は、結節性病変の頻度の増加が報告されたが、サリドマイドがベーチェット病における口腔及び生殖器系の潰瘍と膿疱性丘疹の病変に対し有効であることを示した。</u></p>
	用法・用量 (または用法・用量に関連のある記載箇所)	
	ガイドライン の根拠論文	Hatemi G, et al; Ann Rheum Dis, 2008; 67: 1656-1662 ⁶⁾
	備考	
仏国	ガイドライン 名	ベーチェット病の治療に対する EULAR (欧州リウマチ学会) での推奨 (英國と同様)
	効能・効果 (または効能・効果に関連のある記載箇所)	<p>1) ベーチェット病 (以下、BD と略) の消化管関連の治療に推奨可能なエビデンスにもとづく治療はない。スルファサラジン、ステロイド系抗炎症剤、アザチオプリン、TNFα 阻害剤、サリドマイドのような薬剤が手術前（緊急時を除く）に第一に投与を試みられるべきである。</p> <p>2) 治療耐性及び併発例においてサリドマイドの使用成功例のケースレポート¹⁾がある。</p> <p>3) 治療抵抗性の皮膚及び粘膜所見を有する患者は、アザチオプリン、サリドマイド、IFNαで治療可能であり、大半の症例が TNFα拮抗剤で治療可能である。</p> <p><u>無作為化コントロール試験²⁾及び 3 つのオープン試験³⁻⁵⁾は、結節性病変の頻度の増加が報告されたが、サリドマイドがベーチェット病における口腔及び生殖器系の潰瘍と膿疱性丘疹の病変に対し有効であることを示した。</u></p>

		用法・用量 (または用法・ 用量に関連のあ る記載箇所)	
		ガイドライン の根拠論文	Hatemi G, et al; Ann Rheum Dis, 2008; 67: 1656-1662 ⁶⁾
		備考	
	加国	ガイドライン 名	
		効能・効果 (または効 能・効果に関連 のある記載箇 所)	
		用法・用量 (または用 法・用量に関連 のある記載箇 所)	
		ガイドライン の根拠論文	
		備考	
	豪州	ガイドライン 名	
		効能・効果 (または効 能・効果に関連 のある記載箇 所)	
		用法・用量 (または用 法・用量に関連 のある記載箇 所)	
		ガイドライン の根拠論文	
		備考	

3. 要望内容に係る国内外の公表文献・成書等について

(1) 無作為化比較試験、薬物動態試験等に係る公表文献としての報告状況

＜文献の検索方法（検索式や検索時期等）、検索結果、文献・成書等の選定理由の概略等＞

1) 英国 Cochrane Library

検索式：thalidomide and behcet (bechet も含む)

Result : 4

2) 米国の国立衛生研究所（National Institutes of Health: NIH）の U.S. National Library of Medicine の文献データベース Pub Med（2011 年 7 月 25 日時点）

検索式：thalidomide and behcet (bechet も含む)

Result : 121（このうち、3 報は、Cochrane Library で検索した文献と重複）

上記による検索の結果、Cochrane Library に登録されている文献及び欧州のガイドラインにおける引用文献を中心に、ベーチェット病またはベーチェット症候群のヒトにおける有効性及び安全性に関連する文献を選択し引用した。

＜海外における臨床試験等＞

(1) 無作為化比較試験の公表論文

1) ベーチェット症候群の皮膚粘膜病変の治療におけるサリドマイド、無作為化二重盲検プラセボ対照試験 (Hamuryudan V, et al., Ann Intern Med. 1998 Mar 15; 128(6): 443-450)²⁾

背景：ベーチェット症候群（再発性の口腔潰瘍及び生殖器潰瘍）の男性患者を対象に無作為化二重盲検プラセボ対照試験を実施した。

方法：サリドマイド 100mg 錠およびプラセボを使用し、以下の 3 群に分けて 24 週間の試験を実施した。

1. 300mg/日投与群（朝：実薬 1 錠、夜：実薬 2 錠）

症例数：31 例、平均年齢：27.8 歳

2. 100mg/日投与群（朝：プラセボ 1 錠、夜：実薬 1 錠、プラセボ 1 錠）

症例数：32 例、平均年齢：27.6 歳

3. プラセボ投与群（朝：プラセボ 1 錠、夜：プラセボ 2 錠）

症例数：32 例、平均年齢：26.7 歳

結果（有効性）：主要評価項目は、CR（完全寛解：24 週の治療期間中にあらゆるサイズの口腔あるいは生殖器の潰瘍が認められなくなる）である。他の指標として、1)皮膚粘膜病変数の変化、2)治療に対する眼疾患の反応（いずれかの眼におけるぶどう膜炎の活性化及び視力低下がなくなった場合とした）がある。

CR（完全寛解）は、サリドマイド 100mg/日投与群で 32 人中 2 人、300mg/日投与群で 31 人中 5 人であった。プラセボ投与群 32 人中にはいなかった。

サリドマイド 100mg/日あるいは 300mg/日の投与量による症状の抑制作用は、口腔潰瘍に対し 4 週間、生殖器潰瘍に対し 8 週間で明確になった。この作用は治療中持続したが、投与終了後、急速に消失した。

軽度の口腔潰瘍の平均数が、4週目でサリドマイド治療群の方がプラセボ群より有意に減少した。この減少は、その後も持続し、サリドマイド治療の2群間（100mg/日あるいは300mg/日）では有意差はなかった。

100mg/日あるいは300mg/日投与群のサリドマイドの抑制作用は、8週時で生殖器潰瘍と滤胞性病変に対し統計的に有意であった。また、2群間では有意差はなかった。対照的に、治療終了4週後の評価は、両投与群で皮膚粘膜病変数の増加を示した。従って、プラセボ群と比較した差は、滤胞性病変に対してのみ統計的に有意であった。

眼疾患に関しては、サリドマイド治療群はプラセボ群に比べ、左右いずれかの視覚活性及び視力の低下が少なかった。

結果（安全性）：サリドマイド治療は、プラセボ群に比べ治療開始8週間で結節性紅斑の病変数を有意に増加させた。結節性紅斑の病変数の頻度の増加は8週において300mg群より100mg群で有意に高かった。治療を継続するにつれて、結節性紅斑の病変数の頻度は、3群間で類似していた。

副作用については以下の通りである。

- ・重篤な鎮静：サリドマイド群で3人(100mg/日投与群：1人、300mg投与群：2人)が発現したため、治療を中止した。
- ・ポリニューロパチー：300mg/日群で1人の患者が投与5週目に発現したため試験を中止した。本患者は、中止3年後の再評価時は、無症状で筋電図も正常であった。3人の患者で試験終了後に発現した。
- ・上記以外の副作用：疲労、不眠、しびれ感、ピリピリ感、便秘、一過性発疹、頭痛

（2）他の臨床試験の公表論文

〔オープン試験〕

1) ベーチェット病のような疾患における重篤な口腔及び生殖器潰瘍の治療におけるサリドマイドの臨床経験

(Gardner-Medwin JM, et al., Ann Rheum Dis. 1994 Dec; 53(12): 828-832)³⁾

背景：重篤な口腔あるいは生殖器の潰瘍（OGU）を治療するために59例の患者（内、ベーチェット病（BD）患者は23例）に使用されたサリドマイドの有効性、投与量、安全性（神経病理学的検査を含む）の評価を目的としたレトロスペクティブ試験の実施。

患者59例の内訳は、BD：23例、重度の特発性外陰部潰瘍：25例、エリトマトーデス：2例、慢性肉芽腫症：2例、周期性好中球減少症：1例、C4欠乏/血管炎：1例、クリオグロブリン血症：1例、天疱瘡：1例、AIDS：1例、ホジキンリンパ腫に伴う壞疽性膿皮症：1例、多形紅斑：1例、である。

方法：投与方法は以下の通りである。

<最初の4年間（BD患者は23/59例、女性は8/59例）>

5日間でサリドマイド400mg投与し、その後200mg/日で4週間投与した（計6.6g）。

→更なるサリドマイド投与は、潰瘍が再発した場合のみ1ヶ月間200mg/日投与し、潰瘍がコントロール可能になれば、7-100mg/日に漸減した。

<次の期間（8-3369日）>

治療開始より200mg/日で28日間投与した（計5.6g）。

→顕著な傾眠を示す少數の患者は、潰瘍の消失まで100mg/日以下で投与された。

結果（有効性）：潰瘍消失は1ヶ月で81.3%の症例に認められ、2ヶ月で84.7%の症例に認められた。

口腔・外陰部潰瘍(OGU)例の91.6%は1~2ヶ月で潰瘍が消失した。

BDの73.9%は1ヶ月で、82.6%は2ヶ月で潰瘍が消失した。

他の診断に対し、72.7%の患者は2ヶ月以内に潰瘍が消失した。

2例は、潰瘍消失せず、7例はサリドマイド投与を中止した。

サリドマイドに反応した50例の患者のうち36例（内、BDは16例、OGUは14例、他は6例）は、潰瘍の再発期間中に更に1回の投与サイクルもしくは低用量でのサリドマイド継続治療のいずれかを必要とした。

結果（安全性）：症候性神経障害に関しては、59例中8例(13.5%)は手および足に知覚異常を示した。内SLEの1例は、サリドマイドの典型的な末梢神経障害であった。8例中4例はBDであった。

神経病理的徵候を示す患者において、SNAP（感覚神経活動電位）強度はベースラインと比較して47.4-64.3%へ減少した。

<ベースラインSNAPにおける無症候期間：無症状のニューロパチー>

知覚異常のない8例（内、BD5例、特発性OGU3例）はベースラインSNAPより42.6-69%低下し、サリドマイドを中止した。内3例は治療後もSNAPを記録した。

2例は30%未満の改善を示し、1例が30%より大きく改善した。サリドマイド中止後に症候性となった例はいなかった。

<長期間治療における連続的なSNAP>

サリドマイド治療を2年以上受け、4回以上の神経伝導試験を連續で実施した12例を再解析した。これらの患者のうち7例は、ベースラインSNAP（範囲：51-69%、平均57.24%）から50%未満の範囲で低下のために中止し、この7例中2例は末梢神経障害に進展した。

臨床的神経障害の16例と42%以上減少した推定的神経障害の34例を比較すると、サリドマイド治療期間中は42%未満の低下であり2群間の累積投与量は差がなかった。

<非神経障害性の副作用>

59例中26例(44%)に認められた（内、BD11例、特発性OGU12例、その他3例）。

14例における眠気は減量や休止を必要とした。

他の副作用は、浮腫(2例)、便秘(3例)、体重増加(7例)、めまい(3例)、皮疹(5例)、頭痛(3例)、耳鳴(1例)であった。

結論：サリドマイドは他の治療法に奏功せず重度の口腔内潰瘍および外陰部潰瘍に対する有用な治療方法の1つである。医師は、軸索型ニューロパチーや催奇形性に対して注意深く観察しなければならない。

2) ベーチェット症候群の治療におけるサリドマイド

(Saylan T, et al., Arch Dermatol. 1982 Aug; 118(8): 536)⁴⁾

背景：ベーチェット症候群の患者 22 例（うち、18 例が 10 歳以上）で症状の内訳は、活動性眼病変：3 例、口腔アフタ：22 例、外陰部潰瘍：16 例、血栓性靜脈炎：1 例、毛包炎：2 例、関節炎：1 例であった。

18 例の患者は、抗ヒスタミン薬、ビタミン、ステロイド、コルヒチン、レバミソール、シクロホスファミドおよび他の細胞毒性薬剤に対する反応が不良であった。

方法：サリドマイド 400mg/日を最初の 5 日間に投与後、200mg/日を 1 日 2 回、15～60 日間投与した。

結果（有効性）：サリドマイド自体は重篤な口腔の症状の治療に有効ではなかった。

しかしながら、サリドマイドは、このような口腔での発症において、副腎ステロイドを使用した患者にも部分的に有効であり、ステロイド減量も可能である。

結果（安全性）：サリドマイド治療中に 2 例の患者で結節性紅斑が発現したが、いずれの患者においても以前には発現したことがなかった。併発疾患あるいは他の併用薬もなく、本症状は全く不明のままであった。

副作用は、傾眠、発汗、頭痛であったが、服薬を中止しなければならない副作用は発現しなかった。

3) サリドマイドを用いたベーチェット病の治療

(Hamza MH, Clin Rheumatol. 1986 Sep;5(3):365-71)⁵⁾

背景：ベーチェットの 15-57 歳（平均 32 歳）の男性患者 30 例を対象に実施した。

方法：サリドマイドは、症状の重症度に従い、投与 1-2 ヶ月間連日投与で 300mg（4 例）、200mg（18 例）、100mg（8 例）に投与された。

寛解時の減量例は、200mg（1 例）、100mg（22 例）、50mg（7 例）であった。

投与期間は、6-38 ヶ月（平均 20 ヶ月）であった。

結果（有効性）：27/30 例が寛解した。

頬側潰瘍は 27 例に認められたが、そのうちの 26 例が 1-2 週間以内に寛解した（20 例は完全寛解、6 例は部分寛解）。

生殖器潰瘍は 25 例に認められたが、そのうち 24 例が寛解した（20 例は完全寛解、4 例は部分寛解）。

皮膚病変については、結節性紅斑が 4 例に認められたが、7-10 日間以内に全例とも完全寛解した。

壞死性偽性毛囊炎は 21 例に認められたが、全例が 1-2 週間以内に寛解した（19 例は完全寛解、2 例は部分寛解）。

ブドウ膜炎が 16 例に認められたが、そのうち 11 例はサリドマイド開始時より眼合併症があった。サリドマイド療法を行ったところ、3/11 例は改善、4/11 例は安定、4/11 例は悪化した。

関節合併症については、14 例に関節炎が認められたが、そのうち 13 例は 2-3 週間以内に完全寛解した。1 例は軽度な関節水腫を伴っていたが、部分寛解であった。

結果（安全性）：副作用は4例で生じた。

皮疹（1例）は、サリドマイド療法の7日後に認められた。傾眠は2例に認められたが、減量により消失した。これらの副作用を発現した3例は、サリドマイド療法3-7日後に中断し、本試験から除外した。

紫斑病および結節性紅斑は、サリドマイド200mg投与3日後に1例認められたが、100mg減量により消失した（32ヶ月追跡調査）。

結論：サリドマイド療法はベーチェット病の様々な症状に有用で、コントロールできることを示唆している。

〔使用実態調査〕

1) 疾患発症時の皮膚粘膜に関連したベーチェット症候群の男性患者の予後：コントロール試験に参加した患者の長期アウトカム

（Hamuryudan V, et al., Rheumatology. 2010 Jan;49(1): 173-177）⁷⁾

背景：ベーチェット症候群の男性患者（96例、18～35歳の予後に対し、本疾患の初期における主な器官とは無関係の影響を評価することを目的としている。

方法：前述の「（1）無作為化比較試験の公表論文の1）ベーチェット症候群の皮膚粘膜病変の治療におけるサリドマイド、無作為化二重盲検プラセボ対照試験（Hamuryudan V, et al., Ann Intern Med. 1998 Mar 15; 128(6): 443-450）²⁾」の終了後に、同患者を対象に免疫抑制剤の使用を評価することを目的とした研究を実施した。

結果：サリドマイドのベーチェット病に対する有効性及び安全性の記載はなかった。

2) 再発性壊死性巨大皮膚粘膜アフタとアフトージスに関するサリドマイド治療

（Torras H, et al., Arch Dermatol. 1982 Nov;118(11):875）⁸⁾

背景：再発性壊死性巨大皮膚粘膜アフタとアフタ症（RNGA）とベーチェット症候群の患者18例のサリドマイド治療経験。追跡調査期間は6ヶ月～4年間。

結果（有効性）：粘膜病変はよくコントロールできたが、RNGAと比較して劇的な反応は認められなかった。

外陰部潰瘍を有する4症例のうち3症例は、サリドマイドで少なくとも部分的に良い効果を示した。

粘膜症状に対する効果は、他剤と比較して優れていたか、同程度か、劣っていたかは確認できなかった。

サリドマイドは、ベーチェット病の他の症状（例えば、動脈炎、血栓性静脈炎、あるいは発熱）に対しては、有効性を認めなかった。

結論：サリドマイドは RNGA の最も効果的な治療であり、いくらかのベーチェット症候群をコントロールするのに有効である。

サリドマイドの推奨用量は100mg/日、10日間投与である。高用量でさらなる効果は得られないと思われる。

3) ベーチェット症候群、Cerrahpasa（トルコ：イスタンブールの都市名）の成績

（Yazici H, et al., Adv Exp Med Biol. 1999;455:135-140）⁹⁾

背景：前述の「（1）無作為化比較試験の公表論文の1）ベーチェット症候群の皮膚粘膜病変の治療におけるサリドマイド、無作為化二重盲検プラセボ対照試験